

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	保育とリハのレフティ			
○保護者評価実施期間	2025年11月17日		～	2025年12月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数)	24
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		～	2025年12月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月9日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との報告、連絡、相談の支援	報告、連絡、相談を電話、LINE、面談で行なっている。 送迎時に詳しく様子を伝えたり、家庭や園の様子などヒアリングしている。また、	面談、連絡帳、電話、SNS等、様々な手段や方法でいつでも連絡ができ、相談できるようにシステムを構築している。
2	認定こども園、保育園、幼稚園、学校との連携	定期的に訪問して、並行利用している施設での様子を観察した内容を先生や保護者に情報提供している。 外部の保育所等訪問支援へ繋げている。	現在、学校との直接のやりとりはしていない（保護者からの希望依頼がない）
3	スタッフ全員が有資格者であること （保育士、PT、OT、学校教諭、幼稚園教諭）	発達支援に関わる資格を取得 学会、学習会、動画セミナーなど積極的に参加している。	内部・外部でアウトプットする機会を増やしていく 外部とのつながりを増やして行く 研修を依頼するなど

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事故防止、緊急対応時、防犯、感染症などマニュアルや訓練について、保護者への周知が低い	契約時に説明はしている。訓練時は適宜、報告しているが全ての内容を伝えきれていなかった。	取り組み内容の発信方法を検討。訓練後は連絡帳に記載（行っている）報告する方法をLINEやSNSで発信する
2	地域や外部との交流が少ない。	現状、こども園など並行利用している利用者がほとんどで外部と繋げる必要があるケースが非常に少ない。	利用児・保護者・スタッフが外部の講師を呼んだり、イベントを開催することも検討していく。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 保育とリハのレフティ

公表日 2026年 2月 9日

利用児童数 25

回収数 24

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	88%	12%			のびのびと体を動かさせていると思います。	安全を最優先に構成する。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	88%			12%	十分だと思います。	安全かつ支援が十分にできる配置調整を心がけていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	80%	12%		8%	身の回りのことを一人でできるように工夫されていると思います。	情報過多にならないレイアウト、スケジュール表や支度表など視覚支援やパーテーションなど個々への配慮をして行く。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	96%			4%	とても清潔に感じます。	引き続き実施。毎日の掃除や整理整頓のみならず、遊具の消毒など徹底していく。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100%				子どもの特性をよく理解してもらっています。	引き続き実施。ケース会議を適宜開催して、個別での子どもの理解を深めていく。チームで共有していく。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	83%			12%	相違を感じたことがないです。	面談時に説明を追加していく。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100%				毎回計画内容に納得しています。	今後も子どもと保護者のニーズと子どもと関わる中で見えてくる課題を個々に合わせた方法で支援する計画を作成する。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	96%			4%	本人と家族の希望もきちんと取り入れていただいていると感じます。	引き続き実施。保護者が理解しやすいように見て聞いてわかりやすい言葉で説明を丁寧にしていく。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100%				活動内容に満足しています。	引き続き実施する。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	96%			4%	子どもが飽きないようにとても工夫されていると思います。	引き続き実施する。個々の発達段階や小集団のメンバー構成など考慮したプログラムを細かく作って提供している。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	25%	12%	25%	38%	交流は分かりません。	実施なし。現状、並行利用が多く、交流する必要性を感じていない。また、希望や要望などもない。
保護者 への 説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%				全て説明を受けています。	引き続き実施。説明は時間に余裕を持って丁寧で分かりやすい表現や表記で続けていく。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100%				面談の時に確認しています。	引き続き実施する。必ず計画書を用いて説明しており、これからも継続していく。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	92%	4%		4%	親と一緒に学べる機会を作ってもらっています。	引き続き実施する。アンケートをとっているので、希望や要望に合わせた会を開催していきたい。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	100%				毎回連絡ノートで共有できていると思います。	引き続き実施する。基本的には送迎時に詳しくお伝えしており、連絡帳やLINEで共有している。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	100%				面談の時に相談させてもらっています。	必ず最低でも月1回は対面で話す機会を設けている。普段から困り事などを引き出せるように信頼関係を築いていく。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%				子どもの支援にとても寄り添ってもらっています。	ありがとうございます。これからも保護者に寄り添い、共感を持てるように対話を大事にしていきたい。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	63%	20%		17%	兄弟向けのイベントがあればぜひお願いしたいです。保護者の交流の機会はとてありがたいと思います。	まだ兄弟向けのイベントの開催はできていなかった。前向きに検討していく。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	71%	12%		17%	普段から困りごとがないか聞いてくれる、とても細やかに対応されていると思います。	相談の申し入れがあれば、対応している。今後は相談をしやすい雰囲気や関係づくり、相談できることを発信したり、手段・方法などわかりやすく提示したい。

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100%			子どものことをよく理解してくれています。	引き続き実施する。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	88%		12%	子どもたちのプライバシーに配慮しながらも、活動の様子が知られて嬉しいです。とても熱心にされていると思	引き続き実施する。一人でわからない状況を減らしたい。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	96%		4%	特に不安を感じたことはありません。	引き続き実施する。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	63%	8%	29%	利用する際に説明を受けました。	現状の結果を踏まえて、個別での連絡帳に記載やLINEでの報告が望ましいと考える。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	63%	4%	33%	活動の中で訓練を行なってもらっています。	現状の結果を踏まえて、個別での連絡帳に記載やLINEでの報告が望ましいと考える。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	75%		25%	安心して利用しております。	現状の結果を踏まえて、個別での連絡帳に記載やLINEでの報告が望ましいと考える。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	84%	4%	12%	実際に起こった事はありませんが、説明されていると思います。	事故や怪我などが発生した際は、緊急度を鑑み、連絡方法を選択している。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	100%			先生の事が大好きなので、顔を見ると嬉しそうにしています。	今後も、子どもたちの「好き」「安心」「楽しい」という気持ちを大切にしながら、保護者の皆さまと連携し、一人ひとりに寄り添った支援を継続してまいります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	92%	4%	4%	毎回とても楽しみにしています。明日はレフティと理解し、楽しみにしています。行きたくないということが全くないので楽しみにしていると思っています。	レフティが子どもたちにとって負担ではなく、心地よい日常の一部となっている様子が伺えます。「楽しい」「また来たい」と感じられる通所の場であり続けられるよう、支援の質の向上に努めてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%			楽しみながらのトレーニングで何に効果があるかの説明もしてもらえて大満足です。子どもの成長が目に見えてわかるので、とても満足しています。	楽しさを大切にしながら支援を行うこと、また支援の目的やねらいを保護者の方に丁寧に伝えることは、当事業所が特に大切にしている点です。今回のご意見から、子ども自身の前向きな変化だけでなく、その成長の過程を保護者の方と共有できていることが、安心感や満足感につながっているものと受け止めています。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
保育とリハのレフティ		2026年 2月 9日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		スペースの広さを考慮して1セッションで5名前後の小集団で行っている。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		基準配置に必要な人数は配置している。 また、無資格者は一人もいない。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		絵カードで常に提示している。活動内容は子どもによって個別連絡をして事前に知らせている	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		心地よく過ごせるように、清潔に掃除や整理整頓は毎日心がけている。手指消毒アルコールやティッシュなど常設している。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	2	2	現状としては構造上は個室を用意できない。 パーテーションを使用して個別に対応できるような空間や場所を提供している。	限られた環境や物資の中でできることを考えていきたい
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4		活動内容や方法、業務改善など積極的に意見を出し合う、ミーティングを設けている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		貴重な意見をスタッフと共有しており、支援の改善につながるように協議を続けていく。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		面談を年に2回も受けて、目標や課題について聞き取りを行っている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4	第三者による外部評価なし	今後は必要性を考え、第三者による外部評価を検討してく。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		内部研修、外部研修を参加しており今後も積極的に機会を設けていく。専門的な書籍を揃え、アセスメントツール、障害特性や支援方法、心のケアなど学んでいる。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		誰が見てもわかりやすく、専門性のある内容で作成している。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		ニーズや課題を分析した上で、スタッフで協議してから作成をしている。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		責任者が中心となり、他のスタッフに聞き取りや記録を遡って情報収集を行い、全体で協議している。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		計画が完成した後にスタッフ全体へ説明し、計画に沿った支援を行うようにしている。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	1	数値化できる評価、数値化できない具体的な表現での評価を定期的に確認している。	勉強や準備はしているが、実施している件数が少ない。また持続して評価ができていない。
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		計画の作成にあたってはガイドラインの項目を参照しながら、お子さんにとって必要な支援を検討し、具体的な支援内容の設定を行っています。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		予めリーダーなど全員に役割を決めており、スタッフ全員で毎回立案している。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		基本的なテーマは週替わりで変更していくが、全く同じ内容の活動は繰り返すことはない。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4		特性はもちろん、その日のコンディションに合わせて適宜、対応を臨機応変に支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		活動プログラム立案と同様である	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		出勤しているスタッフでは必ず打ち合わせ、振り返りを共有している。できないときはケース記録を参考にしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		ケース記録や面談記録、送迎時の保護者からの情報など細かく記録している。また、支援の評価、検証、改善に繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		定期的なモニタリングの実施及び支援計画の見直しを行っています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		管理者や児童発達管理責任者が参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		子どもに必要な社会資源や関係機関と連携を取れる体制を整えている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		支援について情報共有と相互理解を図っている。園に訪問したり、送迎時や日常業務の中で直接、やりとりをしている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	1	就学前に必要な情報を提供している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	2	地域の児童発達支援センターとの連携は相談員との情報交換はあっても、スーパーバイズや助言は受けていない。	引き続き、相談員とは情報共有を積極的に行っていきたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	3	利用児以外の子どもと交流する機会や活動する機会は今現状なし。	どのような形でできるのかチームで検討して行く。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	4		口頭や書面で、子供の発達状況や課題について共通理解できるように努めている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4		行っている。今後も継続して行くとともにより良い支援方法を模索していく。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		これからも、丁寧な説明をしていく。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		未就学児がほとんどでなかなか、自分の意思を表出しにくい、見えにくいと思われるが、様々なツールを使用して、思いを引き出していくようにしている。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4		計画を示しながら支援内容を説明している。同意を得てサインを書いてもらっている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		最低でも全ての保護者と月1回は対面で話す場面があり、できるだけ悩みや相談を聞き取るように心がけている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4		保護者同時の交流する機会を設けて保護者支援を開催することができた。しかし、兄弟同士で交流する機会はまだ実施できていない。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		相談や苦情があった場合、担当者にすぐに繋げて早期に対応、解決できるように体制を整えている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		定期的にSNS、HP等活用しており、これからも発信を続けていきたい。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		SNS等で写真や動画を載せているが、事前に許可を得ており、個人が分からないように最大限配慮している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		対面での対話、連絡帳、電話など多様な手段で情報共有できるようにしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4	実施していない。	必要性を感じれば開催を検討。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		職員は入職時や訓練時に周知している。家族等に対しては契約時に説明している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		非常災害についても定期的に訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		てんかん発作など既往歴は事前に情報収集している。内服に関しては連絡帳に記載事項をして表記している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	1	食事提供なしアレルギーについては把握している。	食物に限らず、アレルギーについては把握するなど管理を徹底していく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		避難訓練を行い、定期的に避難用具や場所など確認している。ラジオや非常食も用意している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		安全計画については、利用開始前に説明を徹底している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		ヒヤリハットは作成しており、対策についても話し合っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		県が開催するオンラインでの研修を受講している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4		現状、身体拘束しているケースがない。マニュアルは作成しており、いつでも対応できるように準備しておきたい。	